

説明会開催結果

<件名> 大津市環境美化センター改築事業に係る環境影響評価方法書説明会
 <日時> 平成 25 年 8 月 4 日 (日) 14:00 ~ 15:10
 <場所> 生涯学習センター 視聴覚室
 <出席者> 説明会参加者 10名
 大津市環境部施設整備課 9名、環境美化センター 2名
 パシフィックコンサルタンツ株式会社 3名

【 結果概要 】

要約書を配布し、方法書の内容(事業計画、項目・調査手法等)および意見書の提出方法等の説明を行った。説明後の質疑応答におけるやりとりは以下のとおり。

NO	質問・意見の概要	回答
(事業計画)		
1	工事中のごみ収集は今までどおり行われるのか。	既存施設を稼動しながら工事を行うので、収集に影響はない。
2	余熱を利用した発電を行うとのことだが、発電ありきでの計画ではないのか。いろいろと検討した結果、特にコストの視点で、遠方からの運搬コストも考慮して優位なのか。	大津市としては、安定したごみ焼却が第一と考えている。ただ、既存施設では、ダイオキシン発生抑制のために高温で焼却した後に冷やす工程があり、多くの熱を捨てていた。新施設では廃熱を有効利用するために発電を行う。 発電については、大きな施設の方が効率が高い。また、パッカー車の搬送効率も考慮して、ごみ焼却施設の配置を検討した。
3	大きな施設ほど発電効率が高いのは理解している。 社会的責務も理解できるが、必ずしもごみで発電する必要はないと思う。発電施設を造るよりコストを抑えた方がよいのでは。	収集効率や経済性、脱原発の流れの中で、社会的責務の面からも総合的に判断している。発電施設については、売電収入を考慮して収支は同程度である。

NO	質問・意見の概要	回答
4	アセスの結果によっては、計画の内容が変わるのか。	調査・予測の結果、環境に対して多大な影響が出ると予測される場合には、計画の見直しも含めて検討することになる。
(項目・調査手法等)		
5	大気調査等の調査期間が短い気がするが、これで十分といえるのか。	滋賀県環境影響評価条例で規定された指針も参考に設定している。大切なのは、環境に対する影響を予測することであり、予測に必要な上層大気の調査等については1年間を通して行う。
6	煙突が既存施設より高くなるが、最大着地点はどの辺りになるのか。	新しい施設で今後どうなるかについては、調査結果を元に今後予測により検討する。 なお、30年前の現地のデータを元に試算した結果では、1km 弱の地点に最大着地濃度の出現が推定されている。
7	水質の調査地点について、盛越川でも調査してほしい。	雨水の流路を調査対象としている。 盛越川については、大津市が定期調査を実施しており、必要に応じてそちらのデータも活用する。

最後に、意見については、環境保全の見地から、意見書で提出いただきたい旨、重ねて説明を行った。